

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 18号

2012/10/1 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、ガーナ、11～12年のカカオ買付け数量合計878,524トンに(9/27)

ガーナの各集荷業者からカカオ産業を管轄しているココボードが2011-2012シーズンに買い付けたカカオ豆の数量が878,524トンになったとココボードの発表した資料で判明した。

この数字は各地域のライトクロップの合計数量79,788トンを含んでいます。

世界第2位のカカオ生産国であるガーナは2010-2011シーズンには生産者の技術改善と理想的な天候によって、100万トンを超える買付け数量となった。

ココボードは、10月の前半にはカカオの買付けに必要な15億米ドル(≒1200億)のシンジケートローンを組成し終わって、2012-2013シーズンを80万トンの買付け目標にて開始する予定である。

ココボードの生産者買付け価格の決定委員会は、新物のカカオ買付け時に支払う価格について生産者が要望している“買付け価格値上げ”について打合せを開始した。

ただ、生産者としては、価格上昇について強く要望しているものの、政府からもココボードからも何らかの確約を取り付けたわけではなく、具体的な上げ幅の要望については公表されていない。

2011-2012シーズンについては、ガーナは生産者に対してトン当たり、3280セディ(≒\$1,735)支払っている。

2、11～12年度のカカオ豆着荷量、前年比7%減=コートジボワール(10/1)

コートジボワールの輸出業者が1日公表した推計によると、今年度(11年10月～12年9月)の同国2港(アビジャン港、サンペドロ港)へのカカオ豆着荷量は140万2000トンと、前年度(151万0664トン)比7%超減少した。両港への着荷量が生産量の目安になっている。生産減はメインクロップ期に降雨が少なく風の強い天候に見舞われたのが原因。

9月24～31日の着荷量は約2万7000トンで、前年同期の3万0070トンを下回った。コートジボワール当局による着荷の公式統計はまだ発表されていない。

3、コートジボワールのカカオ集荷業者、新集荷価格を承諾、ボイコット可能性なし。(9/27)

コートジボワールのカカオ産業で新物のスタートを前に論争になっていたカカオ集荷会社に対するカカオ豆の集荷及び輸送価格について、コーヒー、ココア協会(以下、CCC)は値上げを行い、これによって、危惧されていた集荷業者のボイコットの可能性はなくなった。

世界最大の cacao 生産国は、2012/2013 年の収穫を前に、顧客へは cacao 豆の先物売り、生産者へは買付け価格を保証することで、生産者がより cacao 農園に再投資しやすい環境を整えることを目的とした新しい仕組みを始めようとしている。

CCC は輸出業者が払い戻す事の出来る集荷業者の農園からの集荷&港までの輸送コストの許容値を現在の 70 フラン/kg から 80 フラン/kg (\$0.16/kg) に上げることを公表した。

『80 フランならシーズンを開始出来る。シーズン開始を止めることはしないだろう』と国内の集荷業者の約半数が所属する組織の GTC の代表は話す。

これまで、集荷業者で働く集荷人達は、もし CCC が集荷&輸送コストの値上げを認めなければ、新シーズンで仕事をしない、もしくは違法行為である密輸を行うと強硬に交渉を続けていた。

ただ、値上げの要望は終了したわけではなく、集荷業者は 0.94 フラン/kg を要望している。

『まずは今回の値上げした費用が十分かどうか見定めていこうと考えるが、集荷業者のだれもが、実際のコストが承諾されているコストより高くないような仕事を請け負うリスクを負いたくない』と先の GTC 代表は説明する。

また、海外へ販売する輸出業者も集荷業者が満足な収入を得られない場合、彼らが、政府が貸す農家出荷価格を無視して、農家から買付けを行い、そもそも今回の業界のスキームの改革自体の目的が台無しになってしまうリスクがある為、集荷費用の上昇を要求していた、

CCC は、今週、今回の集荷&輸送コストの値上げの承認を行うとともに、20 年にわたって続けてきた同国の国内 cacao 豆圧砕業者向けの税優遇措置を新シーズンより廃止することを決定した。

カーギル、バリーカレポー、セモア、アーチャー・ダニエルズ・ミッドランド (ADM) は、取り扱う cacao 豆の一部をコートジボワール国内で圧砕しており、税優遇措置の恩恵を受けていた。これに対し、同国外で圧砕作業を行っている輸出業者が、国内圧砕業者への税優遇措置をやめるよう求めていたものが今回受け入れられた。

一方、磨砕業者は税優遇措置は、1991/1992 年シーズンに決定された条件であるとし、これを理由に彼等はコートジボワールの発展に寄与する巨大な投資を行い事業拡大し、同国を世界最大の磨砕能力を有するまでにした。政府は磨砕業者の貢献を認めるべきだと主張している。

弊社の視点

cacao 豆の集荷及び輸送のコストは、農園の場所が港からどれだけ離れているか、どの程度集荷が難しい場所かによって大きく異なる。港から近い農園の cacao 豆を集荷するのに、今回の 80 フラン/kg は十分な費用かもしれないが、港から遠く離れた内陸部にとってはこの値上げで十分なコストが賄えたとは言えず、今後も集荷業者と政府側の駆け引きには注視が必要であろう。

4. インドネシア・スラウェシ島の 9 月 cacao 豆輸出前年対比 133% に (10/2)

インドネシアの主要な cacao 生産地であるスラウェシ島からの 9 月度の cacao 輸出数量は輸出業者が抱えていた大量の在庫を販売したこと起因して前年対比 133% となった。

スラウェシ島からの 9 月 cacao 輸出数量は 17,240 トンで、前年 9 月は 7,388 トンであったインドネシア

ココア協会の統計で判明した。また 8 月輸出数量は 4,340 トンであった。

『輸出業者は最近生産者からカカオ豆を買い続けてはいるが、あまり販売していなかったのも、彼等は沢山の在庫を持っている状況だった』と同協会のメンバーは説明する。

また、ココア磨砕業者は新たに工場を設立、拡大しているが、まだカカオ豆を買付けを開始していなかった為に輸出業者の方に在庫が多くまわる状況にあったようだ。

インドネシア島全体からの年間出荷数量は、今年 435,000 トンから 450,000 トンの間と考えられており、昨年は 435,000 トンであった。

また、同協会は 2012 年のインドネシア全体からの輸出数量は、国内のカカオ豆磨砕数量が拡大したことにより起因して、前年の 210,000 トンに対して、130,000～150,000 トンになるだろうと予測している。

インドネシアのカカオ磨砕業者と外資のメジャー資本はアジア域内での需要の可能性に注目しており、カカオ磨砕数量は急速に拡大している。

協会は、2013 年には国内の磨砕数量のキャパシティは今年の 350,000 トンから 500,000～600,000 トンに達すると見込んでおり、インドネシアはカカオ豆の純輸入国にならざるを得ないと予測している。

《スラウェシ島からの輸出数量統計 2011/2012》

月	輸出数量 (トン)	前年対比
September	17,240.14	+133
August	4,340.00	-48
July	8,464.34	-37
June	4,935.48	-68
May	7,912.02	-53
April	7,912.02	+404
March	3,505.66	-69
February	7,917.7	-20
January	8,904.25	-23
December	12,051.72	-21
November	11,702.34	-45
October	6,877.80	-80
September	7,388.28	-61
August	8,421.50	-77
July	13,434.53	-70
June	15,232.68	-41
May	15,099.9	-23
April	1,570	-76
March	11,132.01	-40
February	9,871.4	+12

5、欧州のカカオ市況：カカオ豆の価格プレミアムは下落、ココアバターは堅調

- ・トレーダー筋は、欧州の磨砕業者は生産調整を行っている。
- ・コートジボアールは来週最低買い付け価格を決定する。
- ・ココアバターの需要は引き続き堅調で価格は上昇

欧州市場のカカオ豆プレミアムは先週、磨砕業者の低い収益性と引き続き低調な需要を背景に下落し、磨砕業者は生産調整を行っている状況だ。

コートジボアール産のカカオ豆のプレミアムはロンドン市場の3月限月に対して、先週の+60ポンド/トンより30ポンド下落し、+30ポンド(≒48.57) /トンとなった。

ガーナ産については、先週の+125ポンド/トンから今週+90ポンド/トンとなった。

『いくつかの会社は磨砕数量を減らしている。彼等はココアを現在あまりカカオを必要としていない』とトレーダーは説明する。

第3四半期の欧州の磨砕数量は欧州ココア協会により10月第二週に発表されるが、第2四半期期の前年対比17.8%より更なる減少が予測されている。

コートジボアール産の2012/2013の10-3月のメイン・クロップの収穫数量はロイター社が行った業界筋への調査によると104万トンと見込まれている。

『主要な課題は、カカオ豆がどれだけ早く港に納品されるか否かだ』あるトレーダーは言う。

『コートジボアール政府は来週生産者への最低保証価格を決めるだろう。もし生産者がその価格に満足しなければ生産者はカカオ豆を販売しないだろう』

また、ココアバターの価格を決定するレシオも強くなり続けている需要を背景に底堅い。ココアバターレシオは10月-12月荷渡し条件で先週金曜日は1.85レシオで先々週の1.70レシオよりも更に上昇した。7月初旬は1.22であった事を考えると急激な上昇である。

『チョコレートの需要は我々が予測している程急激には落ち込んでいない、チョコレートメーカーは需要を満たすために更にココアバターを買う必要がある』と別のトレーダーは話している。

6、特集：各国のカカオ豆の集荷コストについて

今回、コートジボアールの中で、集荷コストの話が取り上げられておりましたので、アフリカの各生産国の価格構成について分析をしてみたいと考えます。

下記は、弊社がシエラレオネのカカオ産業を分析した際に調査した、世界銀行による調査を立花商店にて翻訳、編集し纏めたものです。

各生産国から輸出国までのカカオ豆の到着価格を 100%とした際に、農園から相手国の港までの各流通段階でのコストがどのような内訳になっているかを示した棒グラフになります。

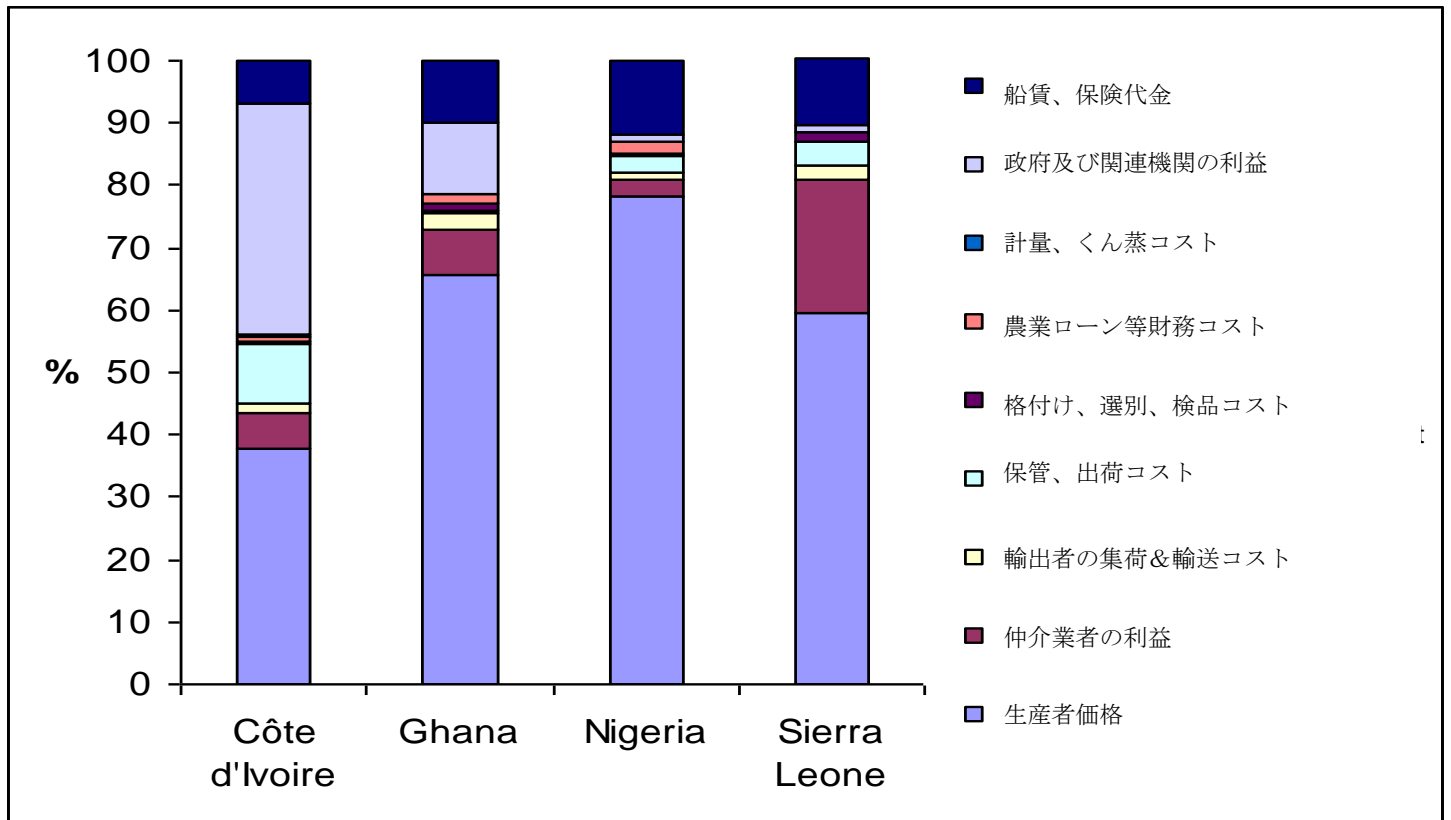
プレミアムは、各国の市場での取引価格はことなることからロンドン市場に対しての現在の大凡のプレミアム（差額）を示しています。

例) コートジ産とガーナ産の間には現在 60 ポンドの値差があり、ガーナ産の方が高い。

*但し、価格調査の時期は 2005 年頃の資料

輸出国到着価格

プレミアム +30 £ +90 £ +10 £ ±0 £



上記の分析から見た、今回のコートジ産のカカオ産業構造改革に対する背景

- 1、コートジの生産者の収益還元は、ガーナや他の国に比べて著しく低い。(生産者が苦しい)
 - 2、政府及び関連機関が、カカオ産業の大きな部分の利益を享受しており、各関連業者への利益分配が進んでいない。(=偉い人が儲けすぎ)
 - 3、保管や出荷コストも他国に比べて高い。
- 推測にすぎないが、港湾の倉庫や港湾業者も政府関係の利権産業になっている可能性があり、ここで

も高い費用を輸出者に支払わせて、政府関係者が収益源としている可能性があった。

4、一方、政府の取り分が少なすぎるというのも一方で良い事とは言えない。利益がないということは一方で何もしていないことを意味しており、その意味でもガーナのカカオ産業は他国に比べ、政府の利益分、生産者への利益配分のバランスが良い。

上記を要約すると、

コートジボワールが今まさに現在目指そうとしているモデルは、ガーナ型に近いもので、政府が主導しつつも生産者への利益配分を増やしていくことを目指していると言える。

苦しんでいる生産者に光が当たり、カカオの生産性をあげることで、以前より収入が増えることを実感し、徐々に生産性と品質向上に対してのモチベーションが上がり、ガーナに劣らない品質となっていく事が期待されているが、収穫数量も栽培面積もガーナの1.5倍の生産大国でどのように均一化した仕組みを導入し、浸透させていくか、今後が問われている状況である。

***現在の連続シリーズの特集である『フェアトレード特集』は引き続き継続致しますが、今週はお休み致します。**

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田 TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp